

## リアルタイム型・蓄積型併用 リモートコミュニケーションシステム

2V-3

羽生田 浩教、澤野 貴、酒井 順一、常澤 邦幸、高橋 俊二、伊與田 光宏

千葉工業大学

### 1. はじめに

近年のコンピュータの高性能・高機能化、ネットワーク化の急激な進展に伴い、電子メール、TV電話等コンピュータを用いたマルチメディアコミュニケーションが急速に広まりつつある。各コミュニケーションツールは単体で利用することが一般的であったが、本研究ではリアルタイム型通信であるTV電話システムに、蓄積型通信である電子メールの機能を加えることにより、双方の利点を兼ね備えた新しいコミュニケーションシステムを提案する。

### 2. リアルタイム型・蓄積型併用リモートコミュニケーションシステム

リアルタイム型コミュニケーションであるTV電話は、相手と直接対話ができるという利点がある反面、相手が不在時には利用できない。蓄積型である電子メールはいつでも利用できる反面、インタラクティブなコミュニケーションはとれない。本システムでは双方を併用して利用する。

通信相手が送信側からの呼び出しに対して応答が可能な場合にはTV電話を用いてコミュニケーションをとる。不在時、多忙時など応答が不可能なときにはテキストメールを送信したり、送信側からのムービーを受信側で録画することが可能である。従来のボイスメールでは、送信の際のファイルサイズが大きいためという欠点があるが、本システムではリアルタイムにムービーとして録画するため、送信時におけるファイルサイズを気にする必要がない。

### 3. 実装

下図に本研究の試作システムを示す。送信側からの呼び出しに対して相手側が応答し、リアルタイム画像と音声により、コミュニケーションをとっている。もし相手からの応答がない場合には、コントロールウィンドウからテキストメールを送信したり、相手側にこちらからのムービーの録画を依頼し、ムービーメールとして保存させることもできる。

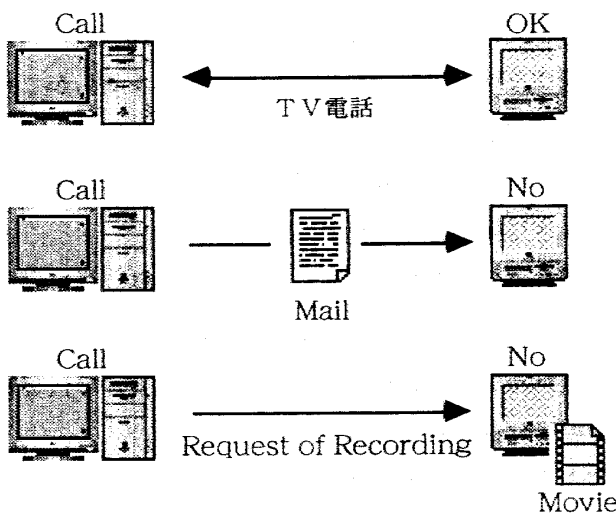


図1 概念図

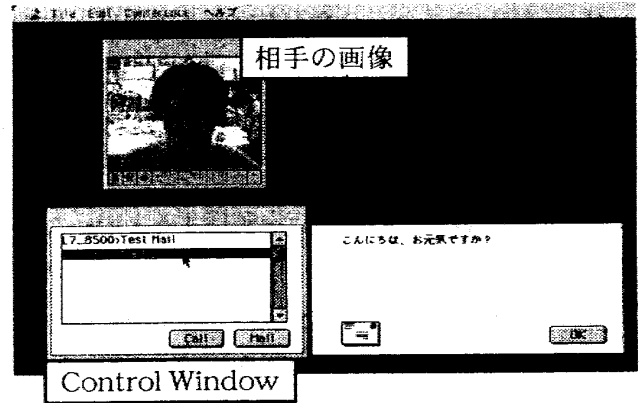


図2 画面例

### 4. おわりに

本研究ではリモートコミュニケーションシステムの一提案としてリアルタイム型、蓄積型を併用したシステムを構築した。TV電話、電子メール双方の利点を合わせることで、より柔軟なコミュニケーションを実現した。

RemoteCommunicationSystem used  
Realtime type and Accumulation type

Hironori HANYUDA, Sawano TAKASHI  
Jyunichi SAKAI, Kuniyuki TOKIZAWA  
Syunji TAKAHASHI, Mitsuhiko IYODA

Chiba Institute of Technology